

**令和6年度文京区アカデミー推進協議会
第1回分科会(国内・国際交流分野)概要記録**

日	時	令和6年7月31日(水) 18:24～19:28
会	場	文京シビックセンター21階 2103会議室
出席委員		座長 山田 徹雄 佐伯 晃、山田 健一、近藤 裕子、塩澤 雅代
欠席委員		-
事務局		長塚アカデミー推進部長 堀越アカデミー推進部観光・都市交流担当課長 瀬戸井アカデミー推進課都市交流担当主査
資料		次第、令和6年度第1回アカデミー推進協議会(以下「協議会」という。) 資料第2-1号、資料第2-2号
(議事) 1 議題 ◎委員意見 ◆事務局説明		1. 令和5年度の事業実施状況の点検・評価について <u>①分野別基本方針 国内交流自治体との交流促進と相互発展について</u> 協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。 ◎区民の皆さんとは、イベントを通じてPRする機会が設けられており、また他の自治体との横のつながりもイベントを通じて増えており、とても貴重で有意義な機会となっている。 ◎所属の国際交流を支援する団体は、自治体との交流に直接関係していないが、留学生は、自治体の交流活動にとっても積極的で、参加するイベントで関係を構築できることを期待している。 ◎物産展等はとても人気が高く、集客面からいうと取り組みやすい事業である。説明にあった盛岡文士劇は、興味を持ち、調べてみたら1日しかやっておらず、複数日やっているといいなと感じた。 ◎食や物産イベントは、誰にも身近で自治体同士の交流もすごく良いと感じた。交流の促進は、こうした活動を通じて経済面での促進にもつながり、金沢では復興支援の物産展から、交流を通して自治体同士が防災などの行政課題に取り組める関係を築くきっかけにも成り得ると感じた。 ◆国内交流自治体等とは、食や物産展等の事業を通じた交流を比較的多く行っている。例えば、当課の都市交流フェスタや経済課の文京博覧会では、多くの自治体から参加及び協力を得ている。これらは交流の入口で、区民が事業をきっかけに自治体間交流を認識し、災害等の有事発生に備え、交流自治体と様々な連携をすることで、協力関係が築ければと考えている。今現在、13自治体と協定を締結

	し交流しているが、金沢の金沢講座や盛岡の啄木学級のように1年に1回の定期事業を行うことで、交流自治体の区民認知度が上がるよう今後も進めていきたい。それから、自治体間の横のつながりの話では、13自治体と点で結ぶだけでなく、今後より必要性の高まる防災面の協力等を見据えて、防災課で昨年度から防災ミーティングを実施し、より一層強化した関係の構築に向けた取組を始めるなど、様々な分野での連携を進めている。 ◎区では多くの協定自治体に来てもらっているが、協定先の自治体に行くことはあるのか。 ◆協定等締結自治体・その他交流自治体等からお声掛けをいただいた場合、機会をみて、現地の祭りなどのイベントに参加したりして本区のPRに努めている。 ◎この方針についてまとめると、区で行う交流イベントの物産展は、自治体間交流の入口であり、今後その先へと繋げていきたい。一つの例としては、定例事業の実施である。また、協定自治体との関係は、個の点だけでなく、防災ミーティングなどの横のつながりへと発展させていきたい。 <u>②分野別基本方針 国際理解を育み定着に向けた機会づくりについて</u> 協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。 ◎近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で直接的な交流ができなかったが、再開できて良かった。国際交流面で言えば姉妹都市に行かれた生徒との継続的な交流が続けば良いと思うが、何かアプローチをしているのか。 ◆ホームステイ生徒交換事業や区民ツアーに参加した方々を中心としたOBOGの団体があり、この団体等区民により長く交流が続き、良好な関係構築が続くと良いと思う。 ◎姉妹都市との交流について、年間でどの程度やっているのか。ホームステイの受入れと派遣は、区民の国際理解を図る貴重な機会だと思う。ただ、区内には多くの外国人が住んでいて大学もたくさんあるため、この環境を活かして、お金と手間をかけず、区民に異文化体験を提供できるのではないかな。ホームビジットの取組は比較的容易で体験者も増やすことができ、区内に住む外国人にとっても、区を身近に感じ愛着がもてる。両者がウィン・ウィンになる上、基礎自治体の区が仲介することで、安心して参加できると思う。 ◆ホームステイの生徒は最大4名で派遣と受入れを交互に行っている。この事業は、およそ40年続いており、受入れ先も市役所だけでなく現地協力者もいて、形はある程度出来上がっている。参加した生徒からのフィードバックや成果について
--	--

ては、現在区ホームページに掲出し広く区民等にもその様子えを伝えている。今後はホームステイに参加した生徒が、区の事業である都市交流フェスタ等国際交流事業にもボランティアで参加したり、友人知人にホームステイ期間中に現地で体験したことを共有してもらい、区民の国際理解促進の一助を担ってもらえると良いと考えている。区民と外国人との交流について、区ではホームビジットは現在行っていないが、区民が外国文化等に触れる機会として、都市交流フェスタややさしい日本語教室で留学生と交流をする機会、文化講座などを設けている。また区民ボランティアが英語で区内在住外国人に区内の魅力あふれる観光名所を案内するガイドツアーを実施するなど、今後も取り組んでいく。

◎留学生に積極的に SNS で発信してほしい件について、できれば年間を通してとの事だが、うちの学生は大体半期ごとに入れ替わる。区は1年を通した情報発信を4月スタートと考えているが、学生にとって1年の始まりは9月なので、区の要望と学生が実際に動ける期間は完全にずれているため、半期ごとに募集するか秋から年度を跨ぐ期間に変え、1年を通してできる学生も出てくる可能性があると思う。去年、働いている大学でトルコに関わる講演会を一般向けに行ったが、区役所にチラシを置く場所があると良い。このような連携もありと考える。

◆留学生の就学に関する情報は、こちらで把握できていなかった点もあり、貴重な情報である。今後の事業実施に当たり、参考したいと思う。大学等で実施する事業の区における広報だが、当課で年2回大学連携の担当者会議を行い、その場で様々な事業案内をしている。これらの機会を通じて周知するのも一手段かと思う。

◎ホームステイ生徒交換事業を再開し、対面での若年層の交流はとても意味がある。参加した生徒にとっていい経験になり、姉妹都市との交流も意味があると思うが、区民にその成果をどう効果的に広報し還元するのか。どんなふうに工夫して伝えたか尋ねたい。例えば、その生徒が感じたことを SNS 等で発信するなり、映像化するなど、実際の体験や交流を通して、驚き感動した経験を、短い映像にまとめて広報活動に使う、または帰国後に報告会をやるなど、さらに区民に還元や発信ができないかと思う。

◆今後は、報告会ができればと良いと思う。ホームステイ事業に参加した生徒には、自分たちが現地で体験したことを、国際交流もそうだが都市間交流、何よりカイザースラウテルン市民との民間外交みたいな形で末永く携われれば良いと考えている。

◎この方針についてまとめると、まずホームステイ事業のフィードバックでは、訪問者による OBOG 会を生かしていく。また、区民と外国人との交流については、まだ現状は限定的ではあるが、都市交流フェスタや、やさしい日本語教室等を通

じて行っている。それから、交換留学生についてはセメスター制度の始まる時期の問題など、貴重な意見をいただいた。国によっては、交代制を取っているところもあり、もっと複雑なところも出ている。

③分野別基本方針 外国人が活躍できる環境づくりについて

協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。

◎外国人における文京区への来客増に着目し、物産展などのイベントで、外国人も積極的に参加できるよう呼びかけ、事業に参画できるように英語表記することで、文京区への愛着度に繋がるのではないかと感じた。

◆参考になるご意見であり、今後は区主催イベントへの参加が区への愛着度に繋がる点も考慮したいと思う。

◎外国人の活躍できる地域や環境づくりで重要なことは「日本語」である。在住外国人もとても増えており、在住外国人が増えれば当然その子弟も増える。この人たちへの日本語教育支援はとても大切な問題で、これは文京区だけの問題ではなく、日本全国で同様に対策しないと、在住外国人の力だけでは手に負えない。日本語は本当に学習するのが難しい言語で、これはボランティアがやればいいという次元の問題ではない。このことは、外国人にとって大変重要なことで、何とかしなくてはいけない。地方で度々外国人に関わる問題が起きているが、日本語ができないことで事件に巻き込まれ、また事件を起こしている。外国人の活躍以前の問題で、ここに支援できたらと考える。私たちの団体も微力ながら日本語クラブをやっている。1回20人位で正規の教育ではないが、ボランティアの先生に1回200円程度でお願いしている。この取り組みを自治体と連携できたら、困っている外国人がたくさんいるので、幅広い支援になると思う。

◆コロナ前より圧倒的に増えており、今後もこの傾向は変わらないと思うが、ほかの区との違いは、やはり大学が多い関係で留学生が多く、単身者が多いことが特徴と考える。区民と外国人との交流は、今年度から、文京区の社会福祉協議会と連携して外国人向けの簡単な日本語教育のサポートを行っている。既に文京区の外国人数が1万4000人を超え、区内人口の5%を超えており、今後もその割合が増える流れは変わらない可能性のある中、外国人が活躍できる場を設けるなど、機会を捉えて様々なご意見も聞きつつ、区政に反映させていきたいと考える。

◎大学院留学生の話だが、この方たちは4月から3月まで、2年間丸々いるが、ほとんどの学生がアルバイトしているので、関りを持てると良いのではないかと。また、留学生は地震が怖くて不安である。特に欧米系の学生は経験が極端に少なく、対応の仕方が分からないため安心して留学できる手引きなどがあるとよい。

	◆地震もそうだが、突発的な豪雨等も頻発している。災害の発生時に日本人だけでなく外国人とも共助できるよう、様々な機会を捉えて日本の防災等を含む情報発信も必要になってくると思われる。防災課の防災フェスタなどの事業を何らかの形でより周知するのも一考かと思う。 ◎外国人が活躍できる環境づくりとは、外国人が住み続ける暮らしやすさを支援して提供するだけでなく、区民と外国人の双方が生き生きと活躍できる環境をつくれたらと思ったことが最初である。言葉は本当に生活の基本で支援が必要だと思う。確かに仕事上の外国人との関わりの中で、日本語が分かればもっと生活しやすかったという話を聞いたりした。外国人とは言っても1くくりにはできないが、外国人同士がうまく支え合えるような仕組みを支援するなど、区の側から提供するだけでなく、そういったネットワークをつくることで、いい環境になったらいいと思った。外国人へのヒアリングや意見交換会などはあるのか。ないならば、ぜひ取り組まれたらと思う。 ◆外国で暮らす人にとって、公用語(日本言えば日本語)が大切であることは、改めて理解した。今のところ、直接的な外国人との意見交換会やヒアリングを実施したことはないが、他区の情報も含め研究してみたい。 ◎コロナ以前は、大学で日本人の学生がボランティアで、留学生に一对一で付くような緩やかな制度ができていたが、コロナ後は、うまく機能していない。この仕組みを区全体に広げ、買物などの生活支援ができると良い。民間でもボランティア活動の核として何かつくれば良いと思う。区民と外国人をマッチングする制度が区全体でもできると良いと思う。 ◆区としてご指摘のようなことを行うにはハードルが高いが、これに取り組む団体に対し何らかの支援をすることなら可能性があると思う。あらゆる面から研究が必要である。 ◎今日の意見をまとめると、すでに区内人口の5%以上を外国人が占めるようになったが、その属性としてほかの地域と違う点は留学生が多いため、単身者が多いということである。この区内留学生との連携を、これからの展望として考えていきたい。さらには、今後は外国人の意見を吸い上げていくことも考えていくということ。それから、災害への援助、これも現状では防災フェスタへの参加等の機会を捉えて行うことがよいのではないかととの答えであった。また、言葉の問題に対しても様々な意見をいただきました。その中でも、ネットワークといった観点から対応していく必要があると思う。
2 閉会	